



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
サカエ工研工業株式会社 稲沢第二工場

■使用評価マニュアル:  
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		基本設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ソーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高: 4.5m		5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率 事務所: 0.23 工場: 0.03	3.0	5.0	0.40		3.0	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性			②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.40		-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			独自③		2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-		-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40		-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.87	3.0	4.3	0.20		-	-	4.3
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.69	3.0	4.1	0.50		-	-	4.1
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器を設置している。	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63		-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			②		2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	1.0	0.20		-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	3.0	4.0	0.24		-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.7	0.22		-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.6	0.68		-	-	
1 消火剤					2.0	0.33		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.33		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30		-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①		3.8	0.33		-	-	3.8
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33		-	-	2.6
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自		5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
適切な量の駐輪場、駐車場を確保している。										
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自		-	-		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

**重点項目スコアシート**

基本設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

サカエ理研工業株式会社 稲沢第二工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:33.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 サカエ研工業株式会社 稲沢第二工場

計画上の配慮事項	
総合	周りは田園地帯で環境も良く、尚且つ近くにはバイパスが通っており、アクセスも便利である。 敷地内には十分な駐車場駐輪場を有し、建物は敷地が広く、周囲からの見通しも良い上、すっきりした外観である。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面に使用している。
Q2 サービス性能	事務所面積・高さについては十分とり 内装仕上げ材、空調、給排水管の更新必要間隔にも配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数 34.3%を確保している。
LR1 エネルギー	BPI=0.87、BEI=0.69である。
LR2 資源・マテリアル	節水の為、節水型機器を使用している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐輪場、駐車場を確保している。導入路は交差点を避け周辺道路への渋滞緩和に値する。
その他	特になし